ラリグラス・ジャパン News Letter

#04
2020
3月号

ヘタウダの市場で出会った女の子。父親はおらず、働き手は野菜売りの母親のみ。貧困家庭の子どもは犯罪に巻き込まれるリスクが極めて高い。

爽やかな風が頬をなでる、気持ちのよい気候になりました。皆さまにはますますご健勝のことと存じます。

皆さまのご支援・ご協力のおかげで、今年度もマイティ・ネパール、NDWS、レスキュー・ファンデーションとともに、活動を継続することができました。改めて、お礼を申し上げます。

ここに本文中に記しきれなかったトピックをご報告いたします。

2年前、マイティ元代表のアヌラダさんが州知事に就任しました。以降、政治家として主に女性と子どもの問題に取り組まれてこられましたが、昨年末、知事の職を解かれることになりました。政争の末、与党・ネパール共産党が、アヌラダさんを含むネパール会議派の知事全員を辞職させたとのことです。

政治家としてますます精力的に女性と子どもの社会問題に取り組んでほしいと願っていたため、残念な報告ではありました。一方で、再びマイティの活動に専念すると聞き、嬉しくも感じています。

彼女の不在中、活動の推進力がやや低下したような気がしていました。マイティの屋台骨はやはりアヌラダさんです。きっと以前にも増して、大きな力を発揮してくれると期待しています。

現地団体の活動を支え、女性と子どもたちの幸せの形を模索することが、ラリグラスのミッションです。どうぞ、これからもご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

認定NPO法人 **ラリグラス・ジャパン**

〒108-0072 東京都港区白金3-10-21　TEL&FAX 03-3446-2193

E-mail：info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

現地活動報告　マイティ・ネパール

インドや中東諸国だけでなく、国内における人身売買も深刻な問題となっているネパール。被害者の多くが未成年であり、なかには10代前半の少女が犯罪に巻き込まれる事件も多発している。カトマンズまで車で5時間の小さな村で生まれ育ったルパ（14歳）もそのひとりだ。

彼女の父親は警察官だったが、酒のトラブルで解雇。母親に経済力はなく、ルパが学校を辞めて働かなくてはならなくなった。

ある日、母親から買い物を頼まれたルパは、市場行きのバスに乗った。そのバスのドライバー・スリジャンに声をかけられた。彼の友人・ダカルも乗り合わせており、聞かれるままに家族の事情や仕事を探していることなどを打ち明けた。

数週間後に乗ったバスを運転していたのもスリジャンだった。ダカルも乗っており、カフェのウエイトレスの仕事を紹介された。下宿先も食事も提供され、給料もいいという。少し迷ったが、「あなたが働けば家族が助かるだろう」といわれ決意した。

その日のうちにカフェに向かった。それから3日間、オーナー、スリジャン、ダカルらに繰り返しレイプされ、その後は客を取らされるようになった。

母親から「娘が帰らない」との相談を受けたマイティは、警察とともに捜索を開始する。聞き込みで得た情報を元にカフェを突き止め、ベッドに横たわるルパを発見。オーナーら3人を逮捕した。

病院に搬送されたルパは、バルトリン腺腫と診断され、2日間入院した後、マイティに保護された。カウンセリングを受け、落ち着きを取り戻したところで、迎えに来た母親とともに自宅に帰っていった。二度と同様の犯罪に巻き込まれることのないよう、マイティのカウンセラーが定期的にコンタクトをとり、フォローしていくとのことである。

'93年の設立当初から、マイティはアウェアネスキャンペーンを続けてきた。人身売買犯罪に巻き込まれることのないよう、誘いの手口や危険回避の術を、演劇や歌を通して知らせる啓発プログラムだ。小規模なものから大規模なものまで、毎年10回程度行っているのだが、12月10日の世界人権デーには、大々的なキャンペーンを展開する。

古くから人身売買犯罪の多発地帯とされるシンドパルチョーク地区とヘランブ地区では、2日間にわたって1000人以上を対象に、ラリトプール地区では中心のパタンから25㎞離れたピュタール、バテダンダという農村で、500人余りの人々に犯罪の手口などをレクチャーした。

貧困は人身売買被害に巻き込まれる大きな要因だ。そのためマイティは女性の収入向上プログラムに力を入れている。東ネパールのイーラムでは、20人を対象に3日間、高値で売れるキノコ栽培の農業指導を行った。収穫まで20人で協力し、利益を分け合う計画だ。今後も同様のグループを増やしていく予定とのことである。

左表は'19年中のマイティの活動を数字化したものだ。大きな成果を共有していただきたい。

村の外を知らない 10 代前半の女の子が犯罪に巻き込まれやすい

国境監視業務による保護	2485人
性風俗産業からの救出	322人
レイプ事件の起訴	88件
行方不明者の受付	2267件
行方不明者の発見	727件
家庭内暴力の受付	333件
家庭内暴力の調停	581件
人身売買案件の受付	240件
マイティ施設への保護	3500人
啓発キャンペーン参加者	2万2045人
出稼ぎ労働者の啓発	7万 306人
国境でのチェック数	24万8643人

キノコ栽培トレーニングの様子

ラリトプールの農村で行われたアウェアネスキャンペーン。
多くの人に足を運んでもらうため、エンターテイメント性のあるプログラムに

レスキュー・ファンデーション

被害者の救出活動を担うRF。売春宿側から賄賂を受け取り、活動を妨害する警察官も少なくない中、数々のミッションを成功させている。昨年11月には4回のレスキューを行い、14人の被害者を救出。人身売買に加担した売春宿経営者やブローカーなど6人を逮捕した。そのうちの1つ、ムンバイのケースについて報告したい。

11月初旬、人力車夫から内偵チームに情報がもたらされた。RFは情報屋を何人か抱えている。人力車夫もそのひとりであり、マイナー（未成年）の女の子を斡旋する女ポン引きの電話番号を知らせてくれたのだった。

内偵チームは客を装い、女ポン引きに電話を入れた。するとスマホに数人の少女の画像が送られてきたため、11月27日に斡旋してほしいと返信した。

警察とともに準備を整える。RFが用意した3人のおとり客を女ポン引きと接触させ、現場を抑えるという計画を立てた。そして当日を迎える。約束の時間になると、女ポン引きが現れた。おとり客が3000ルピーを支払うと、手下の男が2人の少女を連れてきた。おとり客が合図を送る。それを機に、近くで待機していた内偵チームと警察官が踏み込み、数分のうちに女ポン引きを逮捕。16歳と22歳の被害者を救出した。

レスキューされた被害者は、RFで心身のケアや学校教育、職業訓練などを受け、社会復帰を目指す。こうしたRFの活動はインド国内でも広く認知されてきており、協力を申し出る地元企業も増えてきた。たとえば「ムンバイ・スマイル」は、布製のバラを作る商業トレーニングを実施してくれた。後に製品を市場に卸し、少女たちの収入につながるとのことである。

自分を卑下しがちな被害者のケア法として、アートやスポーツにも力を入れている。なにかひとつ得意とするものがあることで自己肯定感が芽生えると考えるからだ。専門のトレーナーを雇い、トレーニングを重ねた結果、マハラシュトラ州女性と子ども開発省主催のスポーツ&アートイベントにおいて、RFのチームがメヘンディで1位、コーコーで2位、カバディ、ダンス、絵画で3位に選ばれた。女の子たちはとても誇らしげだったとのことである。

ヘナという染料で手足に絵柄を描くメヘンディ大会や、
インド伝統のスポーツ・コーコー、カバディ大会に参加した女の子たち

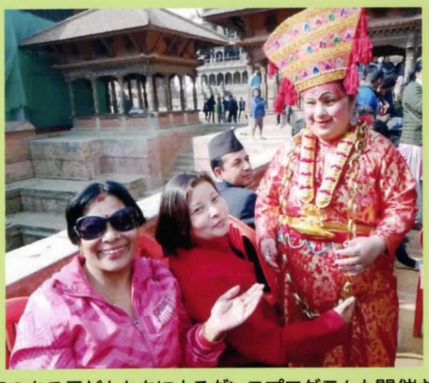
ネパール障がい者女性協会（NDWS）

皆さんは12月3日が何の日かご存知だろうか。'98年12月3日に、国連総会で「障害者に関する世界行動計画」が採択されたことを記念し、'92年より12月3日が「国際障害者デー」と定められた。ネパールでも毎年障害に関するさまざまなイベントが開催されている。障害者の権利を国民に周知するためのラリー活動にはNDWSのスタッフと子どもたち、その保護者らが毎年参加している。

'19年の「国際障害者デー」では、NDWSはゴダワリ市役所（NDWSが所在する市）と共同で「国連障害者の権利条約」に関する障害者と行政職員との意見交換会を開催した。「国連障害者の権利条約」は'06年12月に採択され、障害のある人の基本的人権を促進・保護すること、固有の尊厳の尊重を促進することを目的とする国際的原則である。ネパールは'09年12月に同条約に批准し、'17年には障害者権利法が制定された。法律では、障害者の人権を保障するために環境整備や「合理的配慮」を提供することが規定されている。例えば、車いすを使用している子どもが地域の小学校に入学を希望した場合、学校側は教室の段差をなくすスロープをつけるなど、可能な限り受け入れのための努力をしなければならない。しかしながら、実際には、入学を断られたり、十分な配慮がなされないケースも多々ある。

このような状況を行政職員に知ってもらい、差別解消のための具体的な計画づくりや予算確保に活かしてもらおうと、この意見交換会が開催された。NDWSは支援している障害者・児の現状をスライドで説明。NDWSの代表であり、自らもポリオの後遺症で障害のあるリタ・サッキャ氏は、障害のある女性たちが受けている二重の差別について意見を述べ、障害のある女性たちが社会参加し、意思決定のできる市民社会を提唱した。

市役所で意見交換を行う
行政職員と当事者、NGO関係者


障害のある子どもたちによるダンスプログラムも開催され、
デイケアセンターに通う子どもたちが参加した

委託販売

'08年ごろから、ご自宅で開催されているバザーで委託販売を行ってくださっている野田禮子さん。当会のことを知ったのは、代表・長谷川まり子の著書『少女売買』を読んだことがきっかけだったという。

「『少女売買』を読んで衝撃を受け、ラリグラスのために何かできないかと思い、長谷川さんにメールを送りました。阪神・淡路大震災の後から、その時に必要な被災者支援のためのチャリティコンサート&バザーを自宅で行っていて、最初は『少女売買』だけをバザーで販売しました。その後、ラリグラスの活動報告を読んで委託販売のことを知り、物品販売も行うようになったのです」

阪神・淡路大震災の後、インドネシア・スマトラ島沖地震、東日本大震災などの被災者支援のためにバザーを毎月行われていた時期もあったが、今は年1回秋頃に開催されている。バザー会場の一角にラリグラスのテーブルを置き、ビーズアクセサリーやネパール雑貨などをお知り合いの協力を得て販売されているという。

「人身売買の被害にあった女の子たちがつくったビーズアクセサリーなどを買ってくださる皆さんの気持ちが、少しでも女の子たちのためになるのは、とてもうれしいことです」と言う野田さん。10年以上にわたる息の長い支援をいただき、感謝申し上げたい。

Information

ブライダル基金

レスキュー・ファンデーション（RF）では、人身売買の被害者の女性の自立支援のひとつとして、結婚を望む男性との縁組を行っています。インドでは、金のアクセサリーやサリー、日用雑貨を嫁入り道具として持参しており、一人当たり7～9万円の費用がかかります。また、挙式費用として13～15万円ほど準備しなければなりません。そこで、当会では『RFブライダル基金』を設け、結婚式にかかる費用を、**一口 1,000 円**としてご協力いただいています。

美しく着飾った花嫁

職業訓練

プリベンション・キャンプにて縫製技術を学んだ優秀な女性に対し、卒業時、1台のミシンと仕立て屋開業に必要とされる道具一式を提供しています。一人当たり、12,000 円の資金が必要とされます。女性たちの夢の実現に向けて、**一口 1,000 円**として、ご協力をお願いいたします。

お菓子プレゼント

マイティの女性や子どもたち、NDWSの子どもたちは、貧困家庭の出身者が多く、お菓子を食べる機会が滅多にありません。そこで年2回のお楽しみ企画として、20年以上にわたり、お菓子の詰め合わせプレゼントを続けてまいりました。昨年4月の訪問時から、ロリポップに替えて新製品のゼリーにしてみたところ大好評！次回8月の訪問時に向けて、**一口 1,000 円**の寄付をお願いいたします。

振込先はこちら!

郵便振替

口座番号：00100－5－713661
加入者名：トクヒ ）ラリグラス ジャパン

※銀行振り込みの場合
銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：0一九（ゼロイチキュ）店（019）
口座番号：当座 0713661

銀行振込

銀行名：三菱東京UFJ銀行
支店名：麻布支店（店番：570）
口座番号：普通預金 0158054
振込先名義：トクテイヒエイリカソドウホウジン
ラリグラスジャパン